

# 先が読めない廃止期間を評価するための数値モデルの構築

キーワード: 廃棄物最終処分場、廃止期間（維持管理期間）、将来予測、研究者と実務者の連携強化

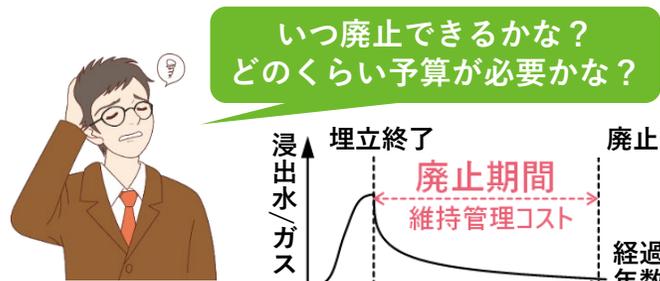
## 1. 廃棄物処分に係る課題

### ■現在の状況

- リサイクルできない廃棄物は最終処分場に埋め立てられます
- 埋立が終わった処分場は周りへの環境負荷が少なくなれば廃止できます
- しかし一般廃棄物の最終処分場の廃止は約2%のみ（施設数1,689/廃止30）

### ■今後はさらなる懸念も？

- 少子高齢化、経済低迷 → 廃止できない処分場が増える？
- 災害廃棄物への対応 → 処分したことが無いごみにどう対処する？
- 埋立地の大型化 → ごみ処理の広域化で更なる長期化が？



## 2. 研究の方向性：実務者と連携を強化



予測誤差の中身を研究する  
統計解析 → 最終処分場の諸元と相関があるのか？

サブ1（研究者視点）

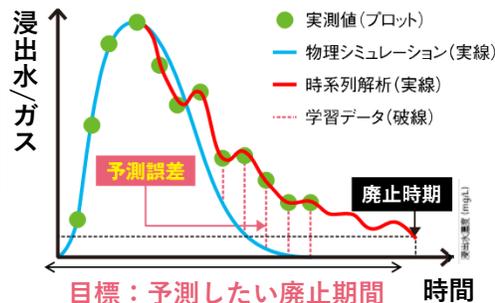
予測モデル構築・精緻化と  
そのための現地調査

予測モデルを組み込んだ情報基盤

実測データの収集と実務者からの意見

サブ2（実務者視点）

モニタリングデータの  
掘り起こしのための戦略的かつ  
効率的な情報基盤の構築



## 3. 研究内容

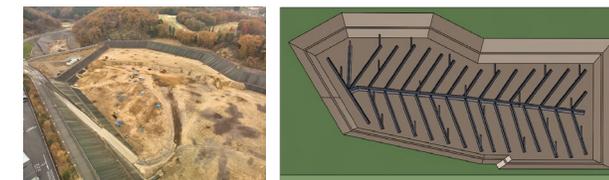
### ■現場試料をそのまま採取



埼玉県内の最終処分場で掘削調査と試料採取を行いました

### ■研究者/実務者間で知識共有

### ■処分場の見える化と水みち探索



### ■多くの自治体と意見交換会を開催



**謝辞** 本研究は、(独)環境再生保全機構の環境研究総合推進費(JPMEERF20213003)によって実施しているものです。